

シルバーバーチのスピリチュアルな法則

宇宙と生命のメカニズム

(064)

“靈的なものとは”

「靈がすべてを支配しているのです。靈は全生命を構成しているエッセンスです。靈こそ生命であり、生命は靈なのです」

“信仰さえあれば知識はどうでもよいのか”

「知識は常に必要です。事実上、己の無能を宣言し、墮落し、錆びついていくことを求めているようなものです。魂は向上するか墮落するかどちらかであり、同じ位置に留まっていることは出来ません。人間は永遠に休むことのない旅人なのです」

限られた五感の世界を超越した知識を得ようとすれば、より高い次元で機能している意識に波長を合わせれば良いのです。その時に直感される知識を“悟り”というのであり、それが人類の道徳的・靈的本性の向上を促すことになるのです。

「みずから思い立って真理探究を志し、行為と想念でもって意志表示をすれば、その人物がそれまでに到達したレベルに相応した知識と教えを授かるように法則がはたらいて、その波動と調和し始めます。そのレベルに限界というものはありません。ここで行き止まりという境界もありません。なぜなら人間みずから無限の靈性を宿しており、真理も無限に存在するからです」

「知識、真理、叡知、成長に限界がないことに気づいた時、あなたは真の意味で自由になるのです。心の奥で間違っていることに気付いたもの、理性が反発するものを即座に捨て去ることが出来るようになった時、あなたは自由になるのです。新しい光に照らして間違いであることが分かったものを、恐れることなく捨て去った時に始めて自由になるのです」

「要するにスピリチュアリズムの根本理念は、地上人類を物質的に豊かにすることではなく、靈的に豊かにすることです。いったい自分とは何なのか、宇宙とは何なのか、そして全てを創造した大靈とは何なのかについての理解に必要な摂理と実在についての知識をもたらすことです」

人間の本質・宇宙の本質

「地上界の問題の大半は唯物思想が人間の行為と考えを牛耳っていることに起因しています。その中でも貪欲と強欲が、地上界を毒している悪性のガンです。人生は全て靈を基盤として営まれており、物質を基盤としているのではないという基本的真理の知識、その理解によって駆逐しなければなりません」

オーラを読む

「物質は靈の作用があって初めて存在するのです」

「靈としては、あなたは常に存在していました。靈は生命の一部であり生命は靈の一部だからです。あなたは生命力そのもので

ある大霊の一部であるがゆえに、“いつから”という始まりはないのです。しかし、個的存在として、あるいは、独立した意識ある個体としては、生命の流れの中のどこかで存在を始めなければなりません」

魂の進化

結局あなたという人物の性格は、そのオーラが機能している場がどのレベルであるかによって決まるわけです。そのバイブレーションのレベルは、物的身体の五感を窓口として獲得する情報を糧として、あなたという個的存在の精神の内部で醸し出された思念によって、全てではなくても、大半が決まります。

「あなた方が生き、動き、呼吸し、考え、反省し、決断し、判断し、思いを巡らし熟慮するのも、霊の力のお陰です。見聞きし、動き、歩き、思考し、おしゃべりするのも霊力のお陰です。あなたの為すこと全て、あなたの存在を形成するもの全てが霊力のお陰なのです。なぜなら、物質界の全て、あなたの物的身体も、存在と目的と方向性と生命を付与する霊的エネルギーの流入があるからこそなのです」

「人生の目的は進化であり、成長であり、成就です。進化するにつれて自動的に古い身体を捨てて、次の段階に必要な新しい身体をまといます」

「現段階においても、皆さんには幾つもの身体がそなわっている、それぞれの次元で顕現しているのです。肉体を捨てると今度

は幽体をまといますが、それは地上生活中もずっとそなわっているその次元のバイブレーションで機能していたのです。肉体が今のあなた方には実感があるように、その次元においては幽体に実感があるのです」

「あなた方には複数の身体がそなわっています。それを幽体とか霊体とか本体と呼んでいます。到達した次元にふさわしい身体で自我を表現します。次の次元の階層へ行けばそれまでの身体は毛虫が脱皮するように脱ぎ捨てます。到達して発達段階にふさわしい形態で自我を表現するわけです。そうした形での発展が無限に続くのです」

「見方によっては、地上界も幽界の一部であると言えないこともありません。全ての階層が、個別に仕切られているのではなく、互いに浸透し合っているからです。全宇宙の生命の全階層が互いに混じり合い浸透し合っており、それに霊的側面、幽的側面、物的側面があるということです。今こうして地上で生活している皆さんも、同時に霊的世界ともつながっていることになります」

「全生命は一つで、それに無限の進化の段階があるということです。あなたはいずれ霊界の住民となりますが、今この時点でも立派に霊界の住民なのです。要はバイブレーションの問題です。あなたはいずれ霊的存在となりますが、今この時点でも立派に霊的存在なのです。死んでから霊的存在になるではありません。死はあなたの霊格を一ミリたりとも伸ばしてくれません」「あなたは霊なのです。これまでもずっと霊でしたし、これから霊で

あり続けます。今の自我意識は物的身体を通して顕現した部分だけの意識です。あなたの方のおっしゃる“死”のあとさらに進化していくにつれて、それまで未開発の部分が顕現されていきます。しかし、霊そのものはどこかへ行ってしまいうわけではありません。どこかからやってきたわけでもありません。ずっと存在していましたし、今も存在していますし、これからずっと存在し続けます」

「もしも皆さんが、自分が肉体をたずさえた霊的存在であること、地上界が全てではないこと、物的なものは束の間の存在であることを自覚してください。もしも皆さんが、本当の自分、不滅の自分、神性を帯びた自分が死後も生き延びて無限の進化を続けることを自覚してください」

「そうすれば、賢明なるあなたは自然の成り行きで、未来の生活の場である死後の世界にそなえた生活を送るようになることでしょう。あなたのなさる行為のすべてが、到達した霊的覚醒のレベルに似合ったものとなることでしょう」

「この幽体の向こうにも、もう一つ、同じように卵形をしていながら、さらに霊妙な成分で構成されたオーラが見えます。これが霊体のオーラです。これも思念の変化に応じて次々と色彩を変化させています。そして、この霊体のさらに向こうに、それと浸透し合うように、さらに一段と霊妙なバイブレーションをした神体ないしは本体のオーラが見えます。形体も美しく、ほとんど形容できないほど神々しい色彩をしています。譬えるものが地上に

見当たらないからです」

「人間の自我がこの本体に宿るのは、肉体が地上生活を終え、幽体による幽体生活——サマールランドも含む——を終え、さらに霊体による霊界生活を終えてからです。それぞれの階層はそれぞれのオーラに宿って初めて体感できるのです」

「地上生活中のあなた方は、心に抱く願望によって、幽体と霊体と本体の発達を促しているのです。最高の波動をもつ本体も、今の地上生活における行為と反動（善悪両面の報い）、思念と願望によって形づくられているのです」

完全な因果律

“形体のない階層では色彩が認識の手段となるのか”

「その通りです、ただ、地上界の色彩は基本的な幾つかのものに限られています。こちらにはあなたの方の理解を超えた波長の色彩が存在します。高級界の存在になると、外見は光輝いて見えるだけで、一定の形態がなく、それでいてメッセージが送られてくるようになります。光輝をともなった思念体というものがあるのです」

「幽体の低いバイブレーションの階層にはそこが物質界でないことに気づかずに、延々と、ただぼんやりと過ごしている人がいます。こちらには時間というものがないことを忘れてはいけません。そのうち自分がただの思念体の中に閉じこめられていることに気づけば、その思念体が崩壊し始めるのですが。自分でこしら

えた牢獄です」

“自由意志が果たしている意義”

「人間を支配しているものに相反する二種類の力があり、それが常に人間界でも葛藤を繰り広げております。一つは動物の段階から引き継いだ獣性、もう一つは大霊の息吹ともいふべき神性を帯びた霊力で、これがあるからこそ、人間も永遠の創造に参加することができなのです」

「その絶え間ない葛藤の中で、そのどちらを選ぶかは各自の自由意志に任されており、こちらの世界に来ると、それが獣性による罪悪を克服し内部の高等な属性を発揮させるための絶え間ない努力、つまり、完全性へ、光明へと向かう道程での葛藤、粗野な要素を削ぎ落とし霊という名の黄金がその輝きを見せるまで鍛えられ、純化され、精錬され、試されるための葛藤において、各自がそれをどう受け止めるかは、当人の自由意志に任されているということです」

「霊とは人間的形体や宇宙の新羅万象として顕現しているエネルギーのことです。生命力であり、エネルギーであり、バイブレーションです。全生命が同じ霊の一部ですから、不滅なのです。地上にいる皆さんは同じバイブレーション、同じ振動、同じ波長の中にいますから、肉体の五感は環境を実感があるように思い、硬いという感触を得ています」

「今そうやって座っておられるイスを皆さんは硬いと感じてい

るでしょうが、それは、そのイスを構成している素材の原子核の回りを回転している電荷と、あなた方の身体の電荷とが同じだということに過ぎません」

「死ぬと今度は幽体と呼ばれている、より高い周波数で振動している身体で生活を続けます。その幽体は死後の階層の波長と同じですから、今皆さんが身の回りの環境が硬いと感じているのと同じ原理で、やはり全てが硬くて実感があるように思えるのです」

波動を高める

「霊の力が全生命を創造したのです。自然界の一つひとつの動きと変化を支配し、四季の巡り、植物の種子、藪や樹木を調節している力、複雑きわまる進化の全機構を掌握している力です。その霊が意識をもつ形態をとった時、そこに個的存在としての霊が発生します。そこがあなた方と動物の違いです。人間（肉をまとった精神）は個性を持った霊であり、大霊の一部です」

「思いやりは霊の属性の一つです。何度も申し上げてきたことです。愛、愛情、友情、思いやり慈悲、寛容心、親切心、無私の奉仕。こうしたものは全て霊の属性です。それを発揮している時、あなたはご自分の神性を顕現していることになります」

完全へ向けてさまざまなバイブレーションの階層を一つひとつ上っていくのが進化ですが、それは同胞への精神の態度の反映でもあります。マイナスの思考は低次元のバイブレーションへと墮落させます。墮落は誘惑であり、それをシルバーバーチは「貪欲、

利己主義、愛欲、出来ごころ、その他、物質中心主義が生む出す悪感情であり、地上生活の毎日はそれとの葛藤です」と喝破しております。

“催眠術の是非”

「施術者が自分の能力を役立てたいという真摯な気持ちで行うのであれば、患者の魂に内在する神性を刺激することになり大いに役立つこととなりますが、同時に、うっかりすると、その反対の獣性を刺激することになりかねません」

そういう危険性に配慮して、現段階の人類としては催眠術師にすべてを任せるよりも冥想によって、マイナス思考をプラス思考に転換して繰り返し内部の自我に言い聞かせるという方法が無難でしょう。いわゆる自己暗示療法です。「人間は自分で考えている通りの人間になっていく」という古諺は真実です。

「進歩の階段のどこかで立ち止まって腰を据えてはいけません。絶え間なく吸収し、大霊の意図した計画を絶え間なく実現していくことによって、初めて生命の永遠の旅の意味を悟ることができるのです」

「人類の靈性進化のための配慮が途絶えることはありません。進歩と成長が進めば、新しい指導者、新しい靈覚者、新しい予言者、新しい靈視家が現れ、新しい時代に即応したビジョン、先見の明、啓示、真理、教訓をもたらしてくれます。啓示に終わりといいものはありません。大霊は完全だからです」

摂理と調和

「大霊とは宇宙の自然法則のことです。物的世界と靈的世界の区別なく、全宇宙の生命の背後ではたらいっている創造エネルギーです。皆さんが知るに至った小さな一部分だけでなく、まだ地上人類に明かされていない大きな部分も含めた全宇宙に、くまなく行きわっております」

「一個の人間として、一階層の人間として、一国家の一員として、あるいは世界人類の一人として、あなた方は自然の摂理に調和した生き方をするか、それともそれに逆らった生き方をするかの、どちらかです。逆らった生き方をすれば暗黒、病氣、困難、混乱、破滅、悲惨、流血といった結果を招きます。反対に摂理にのっとった生き方をすれば、靈的存在としてのたまもの、すなわち叡智と知識と理解力、真理と正義と公正と安らぎを手にするようになります」

「あなたはロボットではありません。自由意志を行使することができます。もちろん一定範囲内のことではありますが、自分で判断して選択する自由が許されているのです。個人でも国家でも同じです。その判断が摂理にならなければ、つまり原則として人の役に立つものであれば、自然界と、ひいては宇宙と調和した結果が巡ってきます」

「私たちは行為と行動、各自の毎日の生き方が大切であることを説いているのです。その中でも絶対的に大事な摂理として、“

因果律”を説きます。すなわち、大霊のはたらきは絶対であり、その摂理をすり抜けられる者は誰一人いないこと、自分が自分の救い主であり贖い主であるということです。自分の犯した過ちは自分が償い、他人に役立つ行為は、霊的成長という形で報われるということですよ」

「私たちは大霊の摂理は機械的にはたらくと申し上げています。優しさ、寛容心、思いやり、貢献は、それを実行に移したということ。自動的の良い報いをもたらし、利己主義、悪行、不寛容は自動的に良からぬ報いをもたらします」

「その法則は絶対的で、変えることは出来ません。安直な執行猶予はありません。子供だましの恩赦ありません。全宇宙を絶対的な公正が行きわたっており、霊的な小人に霊的な巨人のマネはできません。死の床での悔い改めも叶いません。」

シルバーバーチのスピリチュアルな法則

宇宙と生命のメカニズム

ハート出版 フランク・ニューマン著 近藤千雄訳